

# 中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

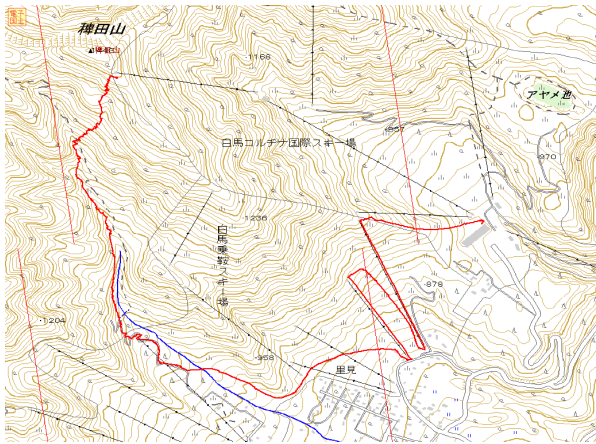
池田工業高等学校

## 第5回北信越高校山スキー研修会

今年で5回目になる北信越高校山岳スキー研修会が、昨週末の2、3日の両日開催された。当初新潟県内での開催を予定していたが、たまたま土地勘のある新潟高体連の先生方の都合がつかなくなってしまったことから、急きょ場所を長野県小谷村に変更した。2日は日本海を爆弾低気圧が通過。猛吹雪となった北海道東部ではこの日、9名の方がなくなるという惨事も起きてしまった。どうもこの冬の登山は天候に恵まれない。

小谷村に変更した計画では、2日は梅池から入山し、天狗原まで登り、唐松沢を下り、フスブリ山を経由して横前倉山を滑ろうというものだったが、猛烈な吹雪が吹き荒れており、とても山に入るという状況ではなかった。集まったメンバーは、石川県から企画者の根石さん、鴻埜さん、北川さんに今回初見参の寺岡さん、富山の八幡さん、長野からは横内さんに小生、そして今年もまた長駆岡山から参加した田中さんの8名。とても山スキーどころではないという状況の中、思案をした結果、北川さんの案でコルチナスキー場最上部から白馬乗鞍へのツアーコースなら危険もなく滑れそうだという情報を得て、ダメならゲレンデスキーをすれぱいいだろうと、コルチナスキー場へと移動した。

足慣らしをしたあと、ゲレンデトップから白乗スキー場トップへと続く黒川沢へと滑り降りた。その前日の雨のためにバーンはめちゃくちゃ固く、極めて滑りにくかった。



滑ったコースは左図の通り。全く登り返しがないうえに、白乗のリフトに乗らずにコルチナまで帰って来られるので、お得に楽しめるコースだ。それに50歳以上はシニア一日券が2500円とお買い得。スキー場自体オフピステを滑れるというのも売りの一つなので、ちょっと山に入れないうような時などに滑るにはちょうどよかった。一本滑った後は、その売りのオフピステをひたすら滑りまくった。ちょっと怪しいオ

ジサン集団に、初見参唯一の30台の寺岡さんも半分呆れて？いた・・・。

夜の交流会もこの会の重要な部分を占めている。夕刻からは大西英樹氏も合流し、去年までのこの研修会をビデオで振り返りながら、いつまでも山スキー談義に花が咲いた。それにしてもみなさん、スキーのことになると話はとどまるところを知らない。かくして夜はいつの間にか更けていった。

3日は、当初予定では、ガラガラ沢を滑ろうという計画だったが、いくらなんでも昨日来の雪の中、沢に入るバカはいない。ということで、大渚山に場所を移動して研修会を行った。大草連集落から入り、大渚山の南東尾根を登り、南斜面を滑ってきた。

9:05、標高780mの大草連集落を出発。集落のどん詰まりには車7~8台を置

けるスペースがあった。天気は回復したが、昨日来の状況の中、みんな考えることは同じで、駐車場には5台の先行者の車があった。ラッセルを覚悟して来たのに、遅出の効用、すでに先行パーティのトレースが続いており、期せずしてラッセル泥棒となり、予想以上に楽な登山となった。登り始めからしばらくは、開墾された田圃の続く傾斜の緩い尾根を登り、10:15、樹林帯にはいる手前の1130m付近で一本取る。昨日とは打って変わって天気は回復し、歩いていると汗ばむほどの陽気である。

樹林帯を登っていくと、右手に見える沢を先行パーティ滑って来た。気持ちよさそうに滑る姿に思わず歓声があがる。美味しそうな斜面があちこちに広がり、下りはどこを



滑ってこようと話が弾む。そんな話をしながら、11:20、どうせ一本では登り切れないだろうと、頂上への最後の急斜面の手前の1460m付近で休憩をとった。先ほどまでは、天気がよかったが、このころから少し太陽はかげってきた。南斜面なので、むしろ滑るにはこういう天気の方が雪の状態がいい条件でいてくれるので好都合である。11:50に山頂台地に到着すると、何組かのパーティが先着していた。

彼らのおかげで、ラッセルもないわずか2時間半の楽ちん登山であった。

頂上台地は風が強く、ややガスって眺望も利かなかったので、一枚だけ写真を撮って一段下で滑降の準備をし、早速滑り降りる。頂上から真南に1366mの地点まで一気に滑り降りた。昨日降ったパウダースノーをまき散らしての、快適な滑降であった。下ってしまうのがもったいないような、すばらしい斜面と雪。とりわけロッカータイプの八幡さんのスキーは威力を発揮、5年前の悪戦苦闘が嘘のような華麗な滑りには脱帽した。それ以外のメンバーもみな気持ちよく滑っている。

下るにつれ、やや雪が重くなり、もともとそれほどスキーに長けていない小生はやや苦戦したが、13:00にはその小生も含め全員無事登山口に帰着。5年目の研修会は幕を閉じた。岡山の田中さんは、せっかく来たからと、その晩は乗鞍に泊まり、今回の研修会には参加できなかった松田さんと待ち合わせをして、翌4日もう一日山スキーを楽しんで帰ったとのこと。

## 編集子のひとりごと

中信地区の高校山岳部の活動をまとめた「中信高校山岳部年報 2012/No.36」が完成した。初代編集長山崎佐喜治先生(1号から20号)、2代目編集長赤羽康定先生(21号から26号)の続けて来られた地道な営みをなんとか引き継ぎ、僕がこの年報の編集に携わって10年になった。今年は新たに「豊科高校」の名前が復活し、合計9校の活動報告を掲載することができた。ここ数年、山を志す若者が増えているのは確かである。今年の年報の編集をしながら率直にそんな感想を持った。そんな若者のために微力ながら、これからもできることをしていきたい。新たな1年生を迎えるのももう間もなくである。一顧問の力でできることなど高が知っているが、それでも顧問の力の入れようでどうにでもなるのが、高校山岳部であるというのもまた真実である。年報は例年通り、希望者には500円でお分けします。大西までご連絡ください。(大西 記)